

津波対策を先送りにした東電幹部の責任は明らか

東京地裁判決 (9/19) に注目を!

てな世界
、が最大
おら、大
か、誰
し誰も
いと責
と思任
いを取
ま取ら
せらな
んない
かいな
?なし

2011年、東日本大震災によって、福島第一原発で3基の原子炉が爆発するという大災害が起きたにもかかわらず、誰も責任を取らないという事態が続いてきました。

被害を受けた1万5000人の市民が、東京電力の幹部を刑事告発したのに、検察は不起訴処分。納得できない市民たちが検察審査会に申し立てすることによって、東電幹部の刑事責任を問う裁判が、ようやく実現しました。この裁判の37回の審理によって、「巨大な津波の発生は予想できなかった」という東京電力の主張が全くのウソだったことが明らかにされました。

被告として責任を問われているのは、当時の勝俣恒久会長、武藤栄副社長、武黒一郎元原子力立地本部長の3人です。

巨大津波の発生を予想しながら、対策を先延ばし

2002年、政府の専門機関である「地震調査研究推進本部」は、福島沖の日本海溝付近で、巨大な津波を引き起こす地震が起こりうるとの見解を公表しました。それに基づいた津波予想をなかなか行わなかった東京電力ですが、少なくとも2008年には15.7mの巨大津波が、福島第一原発に押し寄せるという解析結果を得ていました。その対策として、海面から10mの地盤上に10mの防潮堤を築く案も、実務者によって検討されていたのです。原発の安全をあずかる担当者たちは、当然津波対策が進められると思っていました。

ところが、津波対策を進めようという方針は、経営のトップによってくつがえされてしまいます。武藤被告との面談で、「さらに研究」と対策実施を先送りされた担当者は、「前のめりに対策を実施しようとしていたのに、対策を実施しないという結論は予想していなかったので、力が抜けた」と証言しています。

全造船関東地協労働組合

【2019年9月11日】

一人でも誰でも入れる労働組合 よこはまシティユニオン

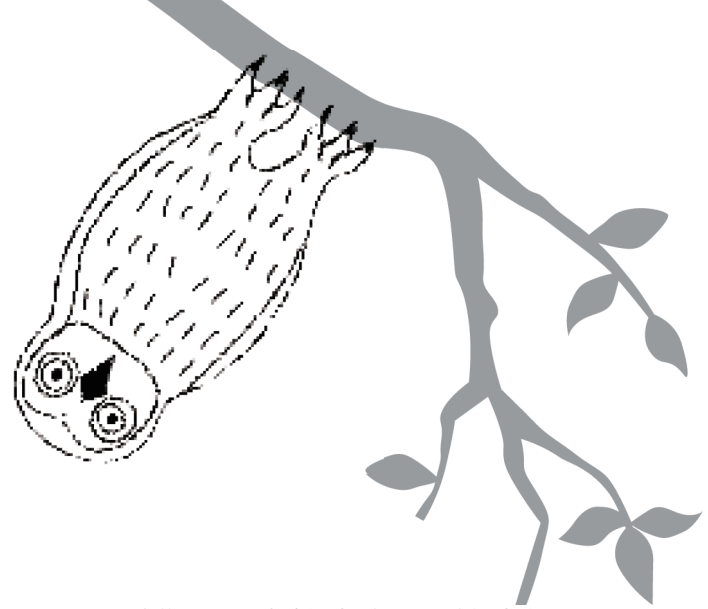
横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホームページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp>

同じ解析に基づいて 対策を実施した東海第二原発は かろうじて重大事故を免れた

茨城県にある東海第二原発の安全担当者は、東京電力からの出向者で、福島県沖で巨大な津波地震が発生するという、福島第一と同じ「東電設計」の解析に基づいて、「盛り土」などの安全対策を進めました。そのおかげで、津波に襲われた東海第二原発は、危機におちいったものの、重大事故を免れることができました。福島第一でも、直ちに津波対策を実施していたら、または、津波対策が終わるまで原子炉を停止していたら、重大事故にまでは至らなかったでしょう。

対策先送りは企業利益優先の判断

結局、津波対策を先延ばしにするという経営トップの判断は、津波対策を検討



していた時期に、中越沖地震で柏崎刈羽原発が止まってしまっていて、それに加えて福島原発まで止めるわけにはいかないという、企業利益を優先した判断でした。被告の三人は、「権限がない」「記憶がない」「責任ない」と無罪を主張していますが、それでは、いったい誰が責任を持っていたのでしょうか。誰も責任を取らない体制で、危険な原発を稼働させていたこと自体が問題です。裁判で明らかになった真実、そして裁判所の判断に注目してください。【組合員H】

■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシテイユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は、電力会社を元請とした4〜8次の下請会社で稼働しています。3・11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は、2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴。第13回口頭弁論が9月24日（火）13時30分〜東京地裁103号法廷で行われます。多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

私たちは、東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月11日に街頭宣伝活動を続けて8年以上過ぎました。これからも何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！